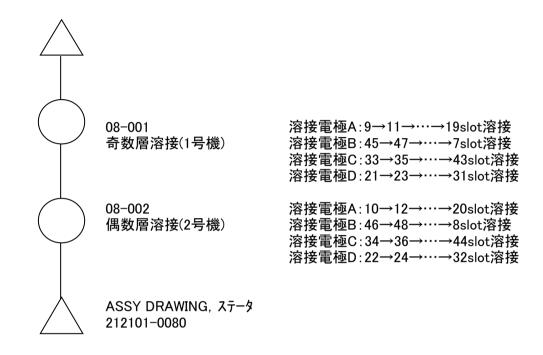
工程系統図	作成日付	2/8/2016	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			作成	配布先				
ライン名		アセンブリ品番、品名 <b>212100-0080</b>			名称			量研	<b>作用</b>		
690A MGステータライン		ステータS/A,モータ	1		重点管理		\$ 13	$\diamond \diamondsuit$		7	
系統No. 系統名 < 1 <b>08</b>		品番、品名 212100-0080			納入先、引当 <b>トヨタ</b>	<b>自車種</b>					
端末溶接(一般部)		ステータS/A, モータ	1		690A						



#### **DENSO** 発行課 検討 配 電機製造2部 生技4室 工程管理明細書 吉 7]۱ Ш 布 作成日付 6/02 6/02/ 6/02/08 先 2/8/2016 $\blacksquare$ 坂 地 系統No. 一系統図番号 ライン名 アセンブリ品番、品名 名称 初期流動用 212100-0080 690A MGステータライン ステータS/A, モータ 重点管理指定 工程No. 工程名 ステーション名 品番、品名 納入先、引当車種 <1/2> トヨタ 80 212100-0080 端末溶接(一般部) (1号&2号) ステータS/A. モータ 690A 〈工程仕様〉 〈加工条件〉 〈加工図〉 捻り後端末修正実施後、端末部189ヶ所をTig溶接 溶接電源 DT-300HV (ダイヘン) 【クランプ方式】 (単発溶接)しU,V,W層を結線する。 溶接電流 ①電極移動 ②クランプ 175A±15A $0.25s \pm 0.05s$ 溶接時間 <設備> トーチ径 $\phi$ 3.2 NO.1 設備 トーチ突き出し量 $3\pm 2mm$ 設備機番 SMC-0813, 0814 トーチ角度 45° トーチ先端径 設備名 端末溶接機(一般部):1号&2号 $\phi$ 0.5 型式 トーチ位置ズレ 径・周共に±0.5mm以下 電極隙間0.05±0.02mm 容量 周方向クランプ 13.3kW, 3.0t 工機部 周方向クランプ圧 $0.13 \pm 0.02 Mpa$ メーカー名 $90N \pm 40N$ 4外電極クランプ 径方向オフセット荷重 ③オフセット 〈工具〉 外電極荷重 $90N \pm 40N$ 突き出し量 NO.1 工具 $3.5 \pm 1$ mm 工具No. 電極厚み Y1501-2413 2.5mm 工具名 ALガス流量 電極L(一般線部) 10±3L/min(1/直:仕掛かり時確認) 工具材種 CuCrB、寿命6万ショット アフターフロー(最内層) 0.3sアーク長 2<sub>mm</sub> (電極チャック許容範囲) ±1.0×±0.8mm

〈工具〉 NO.2 工具 工具No. Y1501-2414

工具名 電極R(一般線部) 工具材種 CuCrB、寿命6万ショット

〈工具〉 NO.3 工具

工具No. Y1501-24150 工具名 外電極(一般線部) 工具材種 CuCrB、寿命12万ショット

<エ具>公 NO.4 工具

工具No. Y1501-20090 工具名 溶接トーチ

2%セリウム入りタングステン、寿命500ショット 工具材種

〈工具〉〉〉 NO.5 工具

工具No. Y1501-25360

工具名 内側棒状電極(一般部) 工具材種 CuCrB、寿命12万ショット

## 〈作業方法〉

サイクルタイム

1. ワークを設備に投入する。(奇数層:1号機、偶数層:2号機)

90s

2. 溶接電極ユニットを前進させる。

溶接マスター波形と相違なきこと

3. 溶接電極をでリード側端末部をクランプする。

4. 左右の電極をオフセットさせて 電極と端末のアースを確実にとる。

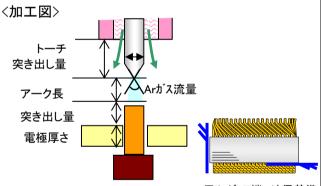
5. 最外層電極ユニットを前進させ、捻り成形で 外周側に膨らんだ部分を寄せてクランプする。

6. バックアップ電極を入れる。

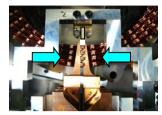
7. Tig溶接を実施する。(内層側⇒外層側)

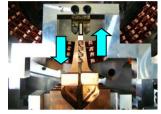
8. 溶接電極をアンクランプし電極を2層分インデックスさせる

9. 奇数層、偶数層を溶接し溶接を完了させる。



反リードコア端、外径基準



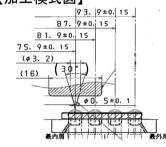




⑤バックアップ電極



【加工模式図】



〈不良品処置〉

・溶接視覚NG品は溶接機前の再投入レーンから再投入 ・相内導体間距離NG、溶接バリ大、短絡は廃却不良とする

# 〈定期清掃〉

以下、項目についてはフェンツ等を用いて

- 1/直の定期清掃を実施のこと。
- ・ワーク加工部
- •溶接電極部
- ・電極ユニット駆動部

## <日常点検>

・日常点検チェックシートに基づき実施すること。

・給油指導表に基づき実施すること。

△2	1/20/2017	工具仕様	初期流動中の検討結果を反映	小坂
Δ1	20161002	溶接のアフターフロー部の箇所と時間変更	誤記修正	山地
No.	改定日	改 定 項 目	改 定 理 由	改定者

ュ	程	僧	暂理	即細書	電機類 作成日付		部 生技4室		小 /02/03 坂 地	)	配	
系統No.	一系統図	番号	・ ラインネ	<b>名</b>		2/8/. アセンブ!	2016 リ品番、品名		坂/\地/			
						2121	0800-00			名称 	初期流動用	
	A MG						タS/A, モータ	1		重点管理指	13 1 2 17	
工程No. <b>08</b>	<b>上程</b> :	<b>占</b>	ステーショ	7名		品番、品	a 00-0080			納入先、引当車 <b>トヨタ</b>	<b>理</b>	
		<u>-</u> (-	一般	部)(1号&2号)		ステー	タS/A, モータ	1		690A		
	質〉	<b>=</b>	NI.	特性			f	管 理 方 法		 工程能力	備考	品質 ID
<u>.</u>		里	No.	計測器 メインエア圧 0.4±0.05MF			管理間隔	管理手法 条件管理	管理者 作業者	σ, X, Cp, Cpk		関係基準
	·		2	<u>圧力計(0.001)</u> Arがス流量 10±3L/m				チェックシート	作業者			
	♦			流量計(0.1)	111			チェックシート			即纸杂四	
	◆	0		溶接強度 64.2N以上 プッシュプルケーシ (1N)			1/直	x−Rs管理図			別紙参照	
	◆	0		溶接断面積 2.9mm以上   X線(0.01mm)			1/W	提検 x−Rs管理図			別紙参照	
	◆	<b>※</b> 1	5	溶接後捻り側高さ 96.  専用測定器(0.01)	15mm以下		4/直(既存/能増を輪番)	x−R管理図	班長		全スロット(一般部189点)のMax	·値 
	♦	(0)	6	相内導体間距離 1.05n 視覚2号機(0.01)	nm以上		4/直(既存/能増を輪番)	x−R管理図	作業者			
	◆	(9)	7	相間導体間距離 4mm ノキズ(0.01)	以上 *7-8T <i>の</i>		4/ <u>直</u> (既存/能増&パターン①/②を軸	x−R管理図	作業者		昼勤 7-8、8-9、9-10スロット間=3か所	•
		0	8	皮膜焼けなきこと	<u>* /-010,</u>			チェックシート	班長		夜勤 31-32、32-33、33-34スロット間=	3か所 
		9	9	目視チェック  溶接あわせ面溶けてい	ること		4/直	チェック	作業者		*限度見本参照	
	•		10	目視チェック  ブローホールなきこと(≦79	8 暫定)		1/W、溶接条件調整時	提検	部検		*限度見本参照 別紙参照	
	•		11	X線 溶接玉品質(玉別れ等			1/直、溶接条件調整時	チェック	作業者			
	•		12	目視チェック(限度見本参  溶接条件 電流値 1	:照) 75A±15A		および電極交換時 4/直(既存/能増を輪番)	x−R管理図	班長			
				ウェルディング・モニタ 溶接条件 溶接時間	0.25s±0.		全数	設備自動チェック x-R管理図	作業者			
	<b></b>		- 10	ウェルディング・モニタ	0.235 ± 0.	.005	全数	設備自動チェック				
										•		
Δ2				具仕様					礼	      期流動中の	<b>倹討結果を反映</b>	小坂
I NI.	ᆲ	5 0				ᅲ	古口				·····································	과 <del>후 포</del>

#### 発行課 作成 配 電機製造部 機電生技開発室 工程系統図 Ш 布 16/10/ 6/10/2 先 10/12/2016 $\blacksquare$ 地 ライン名 アセンブリ品番、品名 名称 初期流動用 212100-0080 \$\times \times \ 690A MGステータライン ステータS/A, モータ 重点管理指定 系統No. 系統名 品番、品名 納入先、引当車種 80 212100-0080 トヨタ

ステータS/A, モータ

## ●接合面積&ブローホール精査部位と頻度

端末溶接(一般部)

● 按 □ 凹 傾 Q ノ □ 一 小 一 ル 相 旦 叩 匝 こ 頻 反								
対象電極	対象スロット	間隔	輪番					
1号機A電極 2号機A電極	9スロット1~8T	1/W	(1)					
1号機D電極	10スロット3~8T、12スロット1-2T 21スロット1~8T	1/W	<b>⑤</b>					
2号機D電極 1号機C電極	22スロット1~8T 33スロット1~8T							
2号機C電極	34スロット1~8T	1/W	3					
1号機B電極 2号機B電極	45スロット1~8T 46スロット1~8T	1/W	7					
3号機A電極 4号機A電極	9スロット1~8T	1/W	6					
3号機D電極	10スロット3~8T、12スロット1-2T 21スロット1~8T	1/W	2					
4号機D電極 3号機C電極	22スロット1~8T 33スロット1~8T							
4号機C電極	34スロット1~8T	1/W	8					
3号機B電極 4号機B電極	45スロット1~8T 46スロット1~8T	1/W	4					

\*中性線部のため1-2TはスロットNo.12で代用

690A

\*中性線部のため1-2TはスロットNo.12で代用

# ●引張強度測定部位と頻度

対象電極	対象スロット	間隔	輪番
1号機A電極	9スロット1~8T		Δ2
2号機A電極	10スロット3~8T、12スロット1-2T	1/直	1
1号機D電極	21スロット1~8T	1/ 追	$\bigcirc$
2号機D電極	22スロット1~8T		
1号機C電極	33スロット1~8T		Δ2
2号機C電極	34スロット1~8T	1/直	<b>4</b>
1号機B電極	45スロット1~8T	1/ 但	4
2号機B電極	46スロット1~8T		
3号機A電極	9スロット1~8T		Δ2
4号機A電極	10スロット3~8T、12スロット1-2T	1/直	3
3号機D電極	21スロット1~8T	1/ 匝	<b>3</b>
4号機D電極	22スロット1~8T		
3号機C電極	33スロット1~8T		Δ2
4号機C電極	34スロット1~8T	1/直	2
3号機B電極	45スロット1~8T	1/ 追	
4号機B電極	46スロット1~8T		

\*中性線部のため1-2TはスロットNo.12で代用

\*中性線部のため1-2TはスロットNo.12で代用

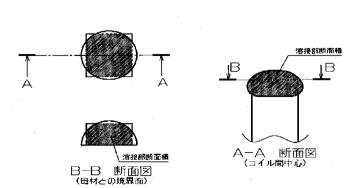
# ●評価項目 **⊬** A 接合面積 2.9㎜以上 ブローホール 7%以下 電極B 電極C 電極D **⊬** A

## 溶接断面積の測定手順

- ・図5 4に示す溶接部をA-Aでカットする。
- 四〇 41に示す/AIX部をA-ACJUSFする。
   図5-5に示すA-A断面図のハッチング部の面積を測定する。
   国材との境界面の溶接断面積を測定する場合は、図5-5に示すA-A断面図のB-BでJusfo、B-B 断面図のハッチング部の面積を測定する。
  なお、母材上面の溶け残りがない場合は、溶接断面積が確保されているため、カット不要とする。



図5-4 溶接断面基準



Δ2	1/20/2017	工具仕様	初期流動中の検討結果を反映	小坂
No.	改定日	改 定 項 目	改 定 理 由	改定者